

<バブルソート>

iX1：インデックス1(検索位置)

iX2：インデックス2 (ソート済格納位置)

D(n)：データ D(1)、D(2)、D(3)、・・・、D(n-1)、D(n)

※配列番号は1から起算

N：データ数

WK：作業域 データを入れ替えるための作業域

(2つのデータを入れ替えるには、一時的にどちらかを避難させる必要があるため)

※下図は未ソートデータの中の最大(小)値が最後尾に向かって順に押しやられていく様子です

